

## 3. 県内外のスケート関係者へのヒアリング結果

利用見込みや施設利用収入の試算に当たり、アイススポーツの競技人口、アイスリンクの利用状況、各種興行の状況等について、県内外のスケート関係者等へのヒアリングにより調査を実施した。その概要は以下のとおりである。（図表2-1、2-2）

図表2-1 スケート関係者等へのヒアリング

関係者等	ヒアリング結果の概要
山形県スケート連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイススケートの競技者は減少傾向にある。平成10年代から20年代前半にかけては、スピードスケートとフィギュアスケートを合わせて100名程度の競技人口であったが、現在は半分程度になっている。スピードスケートの競技人口は村山地域に、フィギュアスケートの競技人口は庄内地域に集中している。</li> <li>・山形市総合スポーツセンタースケート場では、平成30年度において、山形市スポーツ協会や山形市スケート協会によるスケート教室が計26回開催され、延べ862人の参加があった。山形市報等で参加者を募ると、すぐに定員に達することもある。スケート教室は、防寒着と手袋を準備すれば気軽に参加することができるメリットがある。</li> <li>・庄内地域のフィギュアスケートの選手は、スワンスケートリンクが使えない期間は、主に新潟県のスケート場で練習を行っている。</li> <li>・観光誘客と連動し、首都圏等から合宿を誘致すれば、施設の利用拡大が見込めるのではないかと考える。高地トレーニングと氷上トレーニングを組み合わせることができるメリットをアピールしてもよいと考える。</li> <li>・また、山形県におけるスケートの認知度を上げていくとともに、県内の競技者人口増加を目指し、普及活動と選手強化及び指導者の育成が必要であると考えている。</li> </ul>
山形県アイスホッケー連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成10年代をピークに、アイスホッケーの競技者は減少傾向。100人を超えていた競技人口は、現在49人。活動地域は、村山地域と庄内地域となっている。</li> <li>・庄内地域の活動場所は、鶴岡市の小真木原スケート場となっており、スポーツ少年団が週3回程度、同施設で練習している。</li> </ul>

関係者等	ヒアリング結果の概要
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒルズサンピア山形屋内スケート場が営業していた時期には、村山地域のチームは、週6日程度（延べ10～14枠の利用、1枠当たり1.5～2時間）、同施設で複数チームが各々練習を行っていた。そして夏季には、月に2、3日程度（延べ3～6枠の利用）程度、複数チームが仙台市のアイスリンクで各々練習を行っていた。ヒルズサンピア山形屋内スケート場には、庄内地域のチームも週1日通っていた。</li> <li>・ヒルズサンピア山形屋内スケート場の閉鎖後は、村山地域のチームは仙台市や郡山市のアイスリンクで練習を行っているが、移動時間や交通費負担の増、地元チーム優先のリンク貸出などにより、練習の頻度は減っている。（現在活動している大学のチームは、多い月でもアイスリンク上での練習は月2～3回程度）</li> <li>・大学生は3日間程度の合宿を年2回ほど行き、場所の選定に当たっては、①3日間連続で利用できること、②防具を入れるロッカールームが充実していること、③近隣に宿泊施設があり、宿泊代に補助が出ることなどを重視している。</li> </ul>
山形県カーリング協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーリングの競技人口について、昭和62年には44人、平成5年には40人であったが、現在は20人となっている。これまでの経験者を含めれば、現在の愛好者としては100人程度ではないか。</li> <li>・現在は、1年を通して、移動に時間を要する盛岡市アイスリンクで月に1度程度の練習を行っている。（1回の練習時間は4～5時間程度）</li> <li>・盛岡市アイスリンクのカーリングシートは、東北地方及び関東地方からの利用があることから、通年で予約が取りにくい状況にある。</li> <li>・ヒルズサンピア山形屋内スケート場が営業していた時期には、週1回程度、同施設で練習をしていた。その際、ストーンなどは、カーリング協会で所有しているものを使用していた。（摩耗や損傷等があり、更新又はメンテナンスが必要）</li> <li>・出場資格に制限がなく、誰でも参加できるオープン大会であれば、60メートル×30メートルのリンクでも開催する場合がある。ただし、専用シートとは氷の状態が異なるため参加者が集まりにくい状況になっている。</li> </ul>

関係者等	ヒアリング結果の概要
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイススケートで使用した後のリンクでカーリングを行うためには、2時間程度をかけて整氷することが必要である。また、カーリングを行っている間は、リンクを占有する必要がある。</li> </ul>
<p>イベントプロモーター、イベント開催実績を有する施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスショーの興行を開催する際には、収容人数が3,000人程度以上の施設が望ましい。また、アイスリンクのサイズは60メートル×30メートルより小さくてもよい。</li> <li>・イベントを演出するためには、音響設備や照明設備が必要となる。</li> <li>・イベントの開催場所の選定に際しては、大規模都市圏の施設が第一候補となる。それ以外では、一定の収容人数を有し、かつ、アクセス性が良く、集客が容易な場所に立地する施設が候補となる。大規模都市圏以外で、複数年連続でイベントを誘致する交渉は容易ではない。</li> <li>・イベント開催を想定する場合は、施設的设计段階から、どの席からでもアイスリンクが見やすいよう、観客席のレイアウトを工夫するとよい。</li> </ul>